

エネルギー講演会 in 青森

東北エネルギー懇談会・青森県エネルギー問題懇談会連絡協議会主催の「エネルギー講演会 in 青森」が10月21日、青森市のホテル青森で開かれた。双日総合研究所チーフエコノミストの吉崎達彦氏が「当面の国際情勢と環境・エネルギー問題

の行方」と題して講演した。新型コロナウイルス感染症の流行を受けた国際情勢の変化や、脱炭素などエネルギー戦略について解説。各国の拙速な再生エネルギーへの転換が原油高を招いたと指摘した。講演会には市民ら約120人が参加した。



双日総研チーフエコノミスト 吉崎 達彦氏

「脱炭素」戦略 急がば回れ

よしさき・たつひこ 1960年富山県生まれ。一橋大社会学部卒業後、日商岩井(現双日)入社。米アルキンクス研究所客員研究員などを経て2004年から現職。近著に「気づいたら先頭に立っていた日本経済」(新潮新書)。

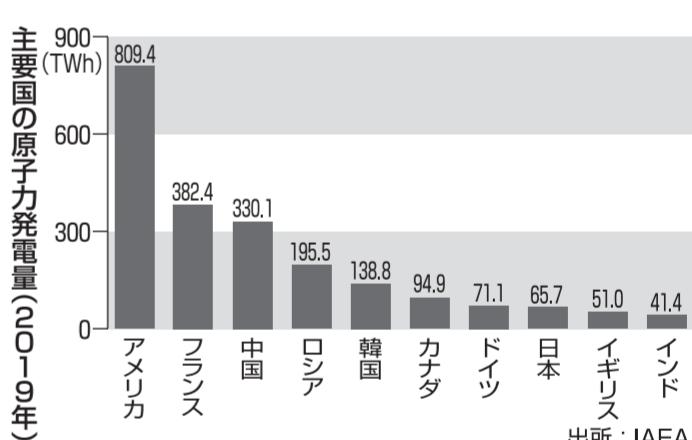
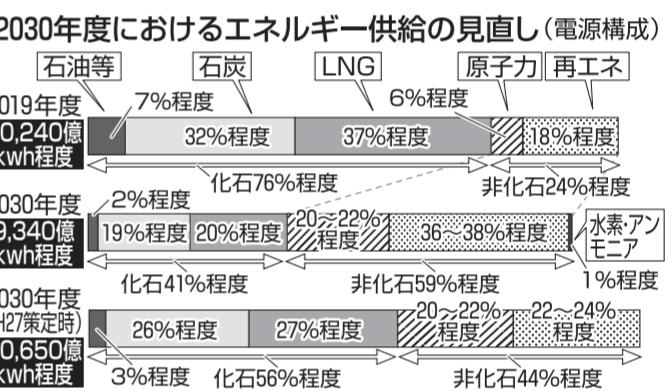


エネルギーに関する質疑応答も行われた講演会。演壇にアクリル板を設置し座席間隔を広くするなど、感染症対策を講じた上で開催された

「脱炭素化を進める上で原子力の重要性についてどう考えるか。吉崎氏は「ぜひ使わなければいけない有効な手段だと思っています。国の長期的な政策指針である「第6次エネルギー基本計画」の策定について、私は常にリプレイスメント(建替)は入れるべきだと言つてきました。岸田内閣や自民党新執行部の顔ぶれを見ますと、その辺りのことにも少し理解があると感じております。大変良いことだと思つて

会場の質疑応答から

原子力が必要だと考える人は「もちろん再生可能エネルギーも大事」と言うのですが、再生可能なエネルギーの中には「原電力は認めない」という人が結構いらっしゃつて、そこは辛いと感じています。再生エネルギーは不安定なので、それがだけに頼るわけにはいきません。化石燃料でガバードするのか、あるいは、ベースロード電源をどこに求めるのか考えたときに、二酸化炭素を出さない原子力はやはり重要な電源であると思います。



IMF「世界経済見通し」タイトルの変遷と世界の実質GDP成長率予測

年	タイトル	成長率予測20年	21年
2020年	Tentative Stabilization, Sluggish Recovery? (一時的な安定化、おぼつかない回復)	3.3%	2.4%
1月	The Great Lockdown (大封鎖)	-3.0%	5.8%
4月	A Crisis Like No Other, An Uncertain Recovery (前例のない危機、不確かな回復)	-4.9%	5.4%
6月	A Long and Difficult Ascent (長く困難な登り道)	-4.4%	5.2%
2021年	タイトル	成長率予測21年	22年
1月	Policy Support and Vaccines Expected to Lift Activity (政策支援とワクチンが経済活動を活性化させる見込み)	5.5%	4.2%
4月	Managing Divergent Recoveries (広がる復興の差 回復を進める)	6.0%	4.4%
7月	Fault Lines Widen in the Global Economy (世界経済の分断線の拡大)	6.0%	4.9%
10月	Recovery During a Pandemic Health Concerns, Supply Disruptions, and Price Pressures (パンデミックの中の回復・健康懸念、供給途絶、そして価格圧力)	5.9%	4.9%

※講演資料より作成

な扱いでした。その後、コロナが広がり世界経済の景気が変わった4月版は「グレートロックダウン」。都市封鎖の衝撃で経済予測も思い切り下方修正。年後半も、コロナでガタガタになつた経済活動をどうやって回復させれば良いのかと途方に暮れています。

2020年1月時点ではコロナは大きな騒ぎになつておらず「一時的な安定化おぼつかない回復」と冷静な扱いでした。その後、コロナが広がり世界経済の景気が変わった4月版は「グレートロックダウン」。都市封鎖の衝撃で経済予測も思い切り下方修正。年後半も、コロナでガタガタになつた経済活動をどうやって回復させれば良いのかと途方に暮れています。

2020年1月時点ではコロナは大きな騒ぎになつておらず「一時的な安定化おぼつかない回復」と冷静な扱いでした。その後、コロナが広がり世界経済の景気が変わった4月版は「グレートロックダウン」。都市封鎖の衝撃で経済予測も思い切り下方修正。年後半も、コロナでガタガタになつた経済活動をどうやって回復させれば良いのかと途方に暮れています。

「拙速なら混乱招く」

コロナで経済大打撃

2020年1月時点ではコロナは大きな騒ぎになつておらず「一時的な安定化おぼつかない回復」と冷静な扱いでした。その後、コロナが広がり世界経済の景気が変わつた4月版は「グレートロックダウン」。都市封鎖の衝撃で経済予測も思い切り下方修正。年後半も、コロナでガタガタになつた経済活動をどうやって回復させれば良いのかと途方に暮れています。

世界にインフレ懸念

コロナに向かっているといふ樂觀的な認識です。それが10月版では「パンデミックの中の回復・健康懸念、供給途絶、そして価格圧力」で、コロナで消費が落ち込

む先進国とそれが遅れる新興国との回復の速度差はあるものの、世界はすでに脱

足元では、世界的なインフレが起きています。当初

これは一過性の問題だと考

えられていました。消費者物価指数は前年比で表す

1月下方修正しただけです

が、大局觀は大きく変わつた印象です。

た印像です。

世界にインフレ懸念

足元では、世界的なイン

フレが起きています。当初

これは一過性の問題だと考

えられていました。消費者物価指数は前年比で表す

1月下方修正しただけです